

## 寄附者設定テーマ事業 事業報告シート

|                  |                        |
|------------------|------------------------|
| 団体名              | 特定非営利活動法人文化のタネ         |
| テーマ名             | フリーテーマ                 |
| 事業名              | 「かくれアーティストの祭典@おおだ」開催事業 |
| 事業費(うち助成金額)      | 111,602 円(111,602 円)   |
| ネーミングライツ(該当があれば) | ※NPO活動推進室記載箇所          |



### ■事業目的（250文字程度）

この事業では、アートを手法として障がいのある人とない人のバイアスを取り除くことを目的としました。私たちは日常生活の中で、無意識のうちに、障がいのある人とない人の間に境界線を引いてしまいがちです。「障がいのある人の作品展だから、福祉の観点から観に行く」という視点ではなく、作品そのものを評価し、作者の個性や表現力に着目してもらうことで、障がいのある人への偏見や差別意識をなくすこと、作品が評価されることを通して出展者の自信につながることをめざしました。

### ■事業内容（350字程度）

「境界のないアート展」として、障がいのある人もない人も、性別も年代も所属も関係なく、誰もが作品を作ることを楽しみ、展示し鑑賞しよう、という事業を行いました。展示にあたっては、作品名と作者名だけを表示することとし、展示だけでは障がいのあるなしや所属などがわからないようにして、すべてごちゃまぜに展示しました。絵だけでなく、写真や編み物、根付、消しゴムはんこ作品など、地元で人知れずに作品づくりを楽しんでいる人の作品が、40点近く集まりました。年代で言えば中学1年～60代までが出展しました。来場者にはふせんに感想や作者へのコメントを書いてもらい、それを黒板に貼っていくことで、感想の交流ができるような工夫もしました。

### ■事業成果と今後の展望（450字程度）

会期中(開館日数：12日間)で98名の来場者がありました。来場者にも書いてもらったふせんには、「良い展示だった」「個性が光っていた」などの感想があったほか、出展した福祉施設通所者からも「もっと作品をつくりたい」といった前向きな言葉がありました。多様性を感じ、作者の個性や表現力そのものを評価してもらうことや、出展者の自信につなげることは達成できたと考えます。

今回の展示について、関係者との振り返りの中では、もっと多くの人に見てもらえたら良いという声もありました。大きな目的でもある、障がいのある人への無関心や偏見、差別意識の解消に向けては、継続していくことが大切だと感じています。出展者の負担にならないよう、2～3年に一回のペースで継続し、会期ももう少し伸ばしながら、大田市内の一つの行事として定着させていきたいと考えています。アートには境界がありません。障がいのある人もない人も、自由に自分の個性を表現できるまちづくりにつなげていくよう、努力していきます。